

23 - 12 - 15

龍城神社

たつき

【鎮座地】 岡崎市康生町五六一

【祭神】 徳川家康公 天神地祇

本多忠勝朝臣 護国英霊

【社格】 旧県社

【祭典】 例祭 四月一七日

神幸祭 四月第一日曜日

【宝物】 徳川家康公、本多忠勝公関係品十

七点。古文書類十三点他。



【由緒】 社伝によると、往昔三河の守護代

西郷弾正左エ門稠頼が、康正元年

(一四五五) この地に城を築いた。

その築城なる日、何処ともなく柳

の五ッ衣に紅の袴を着けた気高い

乙女が天守に現れ、城主に告げて

云う「我はこれ幾久しく此の処に

住む龍神なり、汝われを鎮守の神

と崇め祀らば永く此の城を守護し

繁栄不易たらしめむ」と。折りし

も城中の井水噴き出で、高く天に

沖し飛瀑の如く龍神に注ぎ、一群

の黒雲舞い降りて天守を包むと、

龍神の姿は忽ち消え失せた。此の

不思議に城主は驚き、天守楼上に

龍神を祀ったと云う。そこで城の

名を「龍ヶ城」、井の名を「龍の井」

と称えたと云う。その後、龍ヶ城

は文明年中に松平氏の居城となり、

天文十一年十二月松平広忠君の長

男として城内坂谷御殿に産声をあ

げたのが後の征夷大將軍徳川家康

公である。この英雄生まれ出ずる時、



龍を見たと言う。かくして家康公
薨去の後、城内に東照宮を奉祀し、
当社の創祀とする。

後に東照宮を現社地にお遷しし、
本多忠勝公を合祀、明治九年龍城
神社と定めた。その後、一時社名
を東照宮に復すも明治四十五年再
び龍城神社と改め、大正三年県社
に列し、当地域の中心神社として
崇敬を集めている。今日の社殿は
昭和三十七年社殿再建の議が成り、
広く崇敬者の浄財を得、また日光
東照宮より神木の寄進を受けた社
殿を竣功し、天神地祇、全市旧領
の護国の英霊を配祀した。

平成八年には岡崎
市市制八十周年を記
念して、拝殿天井に
国内最大級といわれ
る白木彫りの昇龍が
奉納された。